



岸本周平
Kishimoto Shuhei
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>

立候補一周年



原稿を書いている8月8日は、昨年、衆議院が解散した日です。まさにその日に、政権交代可能な二大政党政治の実現を目指して、私は立候補を決意しました。

役人生活を20年以上する中で、既得権にまみれた日本の政治を変革するには、官僚の身では力不足であることに歯がゆい思いをしていました。そのため財務省を退官し、トヨタ自動車(株)の奥田碩会長の政策スタッフとして、経済財政諮問会議の場を通じて大胆な変革を目指しました。しかし、社会保険庁ひとつ改革できない現実に絶望し、いずれ政治家になるしかないかと思い始めていました。

そこへ、郵政民営化法案が衆議院で可決後、参議院で否決されたからといって、小泉総理が衆議院を解散しました。この憲政史上まれにみる暴挙を目の前にして、正義感なのか、単なる怒りなのか、自分でもコントロールできない強い感情にかられ、準備ゼロで立候補を決意したのです。

残念ながら戦いには敗れ、この連載でおわかりいただけるような浪人生活を送っています。毎週月曜日の駅での街頭演説、戸別訪問、ミニ集会と地道な活動を黙々とこなしています。一方で、民主党の弱い和歌山県では、選挙区での国会議員がいないため、新人で落選中にもかかわらず、民主党和歌山県連の代表に選ばれました。浪人とはいえ、公党の代表ですから、自分の選挙以外の仕事もたくさんあります。

先月号でご報告した県議補選では、おかげさまで民主党公認の藤本まり子さんが6万668票を獲得しトップで当選できました。和歌山県議会史上初めての民主党議員が誕生したのです。この結果には大いに元気をいただき、私の活動にもますます力が入るようになりました。

夏は盆踊りのシーズン！和歌山市では、8月5日に38回目の「紀州おどり ぶんだら節」が盛大に開かれました。「踊る阿呆に見る阿呆」は阿波踊りだけではありません。私



も和歌山市料理飲食業組合の連に入れてもらって踊ってきました。30年ぶりのふるさとですし、子どもの時にも踊ったことがなかったので、前日に特訓をしていただきました。組合の女性陣と一緒に踊りの練習をしたり、休憩と称してはべちゃくちゃとおしゃべり。ミニ集会のノリで楽しめます。

いつあるかもしれない解散総選挙に備えて、日々の活動が続きます。真夏の戸別訪問は汗まみれの修行です。それも含めて、楽しみながら頑張ります。

